

とよしんの健全度

とよしんでは、お客様が安心してお取引いただけるよう「堅実経営」「健全経営」を行っております。

■自己資本比率

とよしんの自己資本比率は、10.23%と国内基準の4%、国際基準の8%を大きく上まわることができました。

■不良債権比率

●信用金庫法開示債権（リスク管理債権）及び金融再生法に基づく開示債権比率
（総与信に対する不良債権比率）
不良債権比率は、2.72%と前年度比0.21ポイント低下しました。

■預金残高

とよしんの預金残高は、1兆8,482億円（前年度比390億円マイナス）となりました。公金預金の減少により預金残高は減少しておりますが、「お客さまの信頼のバロメーター」である個人・法人のお客さまからの一般預金は540億円増加しており、安定した預金基盤を維持しております。

■収益状況

投資効率改善を目的としてロークーポン債券のロスカットを行い、国債等債券売却損28億円を計上した影響で業務純益は1億円となりましたが、経常利益は31億円、当期純利益は23億円を確保しており、金庫の収益性に特段の懸念はございません。

■内部留保

とよしんの財産である会員勘定（出資金、特別積立金等）は、859億円と前年度比22億円プラスとなり、より内部留保を充実することができました。

■内部管理体制

とよしんは、自己責任原則のもとづく内部統制システムの充実に主要経営課題と位置づけ、法令等遵守及びリスク管理等の内部管理体制の構築を進めています。

地域密着型金融の取組みについて

当金庫では、ビジョンとする「地域ナンバーワン金融機関」を目指し、「地域密着型金融推進計画」を策定し、各種項目について積極的に取組みました。

1.経営理念

当金庫は、地域の皆様にお役に立つコミュニティ・バンクを目指し、「貢献」「健全」「幸福」を経営理念として、地域にあって地域とともに歩んでまいります。

2.目指す姿：地域ナンバーワン金融機関

信用金庫を取り巻く経営環境は、間接金融から直接金融への流れ、グローバル化やIT化の進展、他業態からの金融業界への参入など、大きな変化にさらされています。

こうした環境下において、これまでの経営モデルを見直し、業務の広範囲において新しい取組みを始めることが必要となっていました。今後も創意工夫をこらし、お客様のニーズにお応えするとともに、地域貢献活動やコンプライアンス・CS活動を徹底し、地域ナンバーワン金融機関を目指してまいります。

3.地域密着型金融の取組みについて

当金庫が取組む地域活性化のポイント

- (1) 取引先の経営課題の把握を起点にライフサイクルに応じた本業支援を通じて企業価値向上を後押しします。
- (2) 地域住民や事業者の抱える課題解決に向けて自治体、社会福祉協議会、警察その他関係機関と連携し、相談、情報提供等の支援事業に取組みます。
- (3) 海外ビジネスへのサポートを通じて、お客様のビジネスチャンスの獲得・拡大を国内外関係当局、支援機関、海外現地銀行、海外工業団地等と密接に連携し支援します。
 - ① 進出国・地域の情報提供
 - ② 現地銀行口座の開設支援
 - ③ 海外ビジネスマッチング支援
 - ④ 海外ビジネス関連情報メール配信サービス
 - ⑤ 現地での資金調達支援
 - ⑥ 本邦と海外との輸出入取引等の販路拡大、具体的な輸出入手続等のお手伝いをいたします。